

第49回日本救急医学会総会・学術集会



ランチョンセミナー 25

# 体温管理療法の今後 — TTM2 trial をうけて —

日時 【現地会場】 2021年11月23日(火) 12:10 ~ 13:10

会場 B3会場 (ベルサール八重洲 2F ROOM D+E)

司会 横堀 将司 先生 日本医科大学 大学院医学研究科救急医学分野

演者 錦見 満暁 先生 広島大学 救急集中治療医学

参加  
方法

セミナーにご参加いただくためには、事前に学会参加登録が必要となります。  
詳細は、学術集会ホームページをご確認ください。

<https://site2.convention.co.jp/jaam49/>



※整理券制を予定しております。詳細は学術集会ホームページ等にてご確認ください。

販売名: Arctic Sun 5000 体温管理システム  
承認番号: 22700BZX00278000  
製造販売元: 株式会社メディコン

販売名: Arctic ジェルパッド  
認証番号: 226ADBZX00175000  
製造販売元: 株式会社メディコン

共催 第49回日本救急医学会総会・学術集会 / 株式会社メディコン



# 体温管理療法の今後 – TTM2 trial をうけて –

錦見 満暁 先生

広島大学 救急集中治療医学

心肺停止後症候群 (PCAS) に対して体温管理療法 (Targeted Temperature Management; TTM) は、2002 年の大規模研究以降心肺蘇生ガイドラインでも推奨され、臨床で普及したが、TTM 中の最適な設定温度 (低体温 or 平温) に関しては未解決のままである。2013 年の大規模研究 (TTM-1) では、高体温を回避し平温に保つ平温療法と 32-34°C を目標とした低体温療法で予後に差がなく、あえて低体温療法を行う必要はないとの結果であった。2019 年の HYPERION trial では、初期波形が電気ショック非適応リズムの心停止患者に限定すれば、33°C の低体温療法群は 37°C の平温療法群よりも 90 日後の神経学的予後が良好であった。しかしながら 2021 年に発表された初期波形に関わらず心原性が疑われる、もしくは原因が不明な心停止患者を対象とした TTM-2 では、低体温療法群と平温療法群で 6 ヶ月後の死亡率及び神経学的予後に差はなかった。一見相反するよう見える直近の 2 つの RCT の結果は重症度の違いという観点からみれば、解釈が可能かもしれない。本セッションでは最新の TTM に関する RCT の結果を整理し、PCAS にとって最適な TTM とはどのような TTM なのか、今一度考えたい。

共催 第 49 回 日本救急医学会総会・学術集会 / 株式会社メディコン

製造販売元

株式会社メディコン

本社：大阪市中央区平野町 2 丁目 5 - 8 ☎ 0120-036-541

[crbard.jp](http://crbard.jp)



BD, the BD Logo and Arctic Sun, Arctic ジェル are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. All other trademarks are the property of their respective owners. © 2021 BD. All rights reserved.

BD-47454